

普及活動情勢報告（令和3年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

農薬に頼らない病虫害防除を考えるきっかけに ～令和4園芸年度ニラ部会出荷始め総会～



ネギアザミウマ対策の試験結果について説明する普及指導員（右奥）

11月19日、大間集出荷場会議室でJA土佐くろしおニラ部会出荷始め総会が開催され、生産者19人が出席しました。

当課からは光反射シートを活用したネギアザミウマ対策の試験結果を報告しました。光反射シートを設置したハウスと設置していない隣接するハウスで粘着トラップに付着したアザミウマ数を比較したところ、7～10月の全調査日でシート設置ハウスの方が少なく推移しました。生産者からは「これからは農薬だけに頼らない方法も検討しなければならない」という意見がありました。

当課はJA営農指導員と個別巡回等で農薬のローテーション散布を基本とした病虫害対策の啓発を継続するとともに、物理的防除についても情報提供し、ニラ部会の収量品質向上を目指します。

梶原町の農地・担い手について意見交換 ～振興センターと梶原町農業委員会との意見交換会～



意見交換会の様子

11月26日、梶原町農業委員会との意見交換会を開催し、17名が出席しました。

当課からは、基盤整備事業の概要や農地中間管理事業に係る協力金制度などについて情報提供しました。

また、意見交換会では農地の利用状況確認の結果や現在進めている「人・農地プランの実質化」に向けた取組状況についても情報共有され、今後の活動連携など意見交換ができました。

当課としては、定期的に意見交換会を実施し、中山間地域の農業振興について、関係機関との連携を強化して取り組んでいきます。

集出荷場の衛生・安全・労働環境をチェック！ ～集出荷場 GAP 点検の実施～



管理記録簿を JA と普及指導員とでチェック

11月26日に、JA土佐くろしおの3つの集出荷場を対象に、JA販売課、営農指導課、集出荷場の職員とともにGAP点検を行いました。

点検では、出荷箱への異物混入を防ぐために一番上の箱を被覆または裏返しにする、管理状況の把握のため記録簿の記帳を引き続き行う、作業場の明るさ確保のために切れた電灯を交換する等について、集出荷場関係者と結果や改善対策を共有しました。

今後は、指摘のあった改善対策の実践状況を確認するとともに、他の集出荷場についてもGAP点検を行い、出荷工程における衛生・安全・労働環境が適切に維持できるよう指導していきます。

データ活用どうやるの? ～「データ駆動型営農指導」講習会～



アドバイザーの説明を聞く
営農指導員等

高知県では、ハウス内の環境データ等をオンラインでつなぎ、データ共有基盤「IoPクラウド（SAWACHI）」を活用したデータ駆動型農業の実践を進めています。12月6日、農業イノベーション推進課主催のもと当課及びJA職員を対象にデータ活用のスキルアップを目的とした講習会が開催されました。

講習会では、パソコンを用いてデータ分析ツールを動かし、ハウス内環境データのグラフ化など様々な機能を体験しました。参加者からはグラフの改善案や欲しい機能について多くの意見が出されました。

今後も、当課はデータ分析スキルを強化し、生産者への栽培指導に活用していきます。

目指せ！津野山でも反収10t！ ～津野山ミョウガ部会がJA宿毛支所の篤農家を視察研修～



10t 採りの秘訣は？

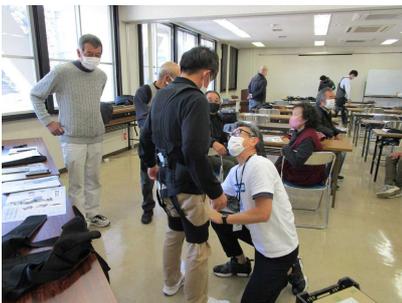
12月7日、津野山ミョウガ部会8名が反収10tを達成した宿毛市の篤農家は場の視察研修を行いました。

参加者からはミョウガ草勢の判断の仕方とそれに応じた管理の改善方法やかん水の設定方法・基準などについて積極的な質問があり、高い関心を持って聞いていました。

また、宿毛市篤農家からは津野山ミョウガ部会の栽培状況も見たいと話があり、来年3月に実施することとなりました。

当課は今後も他産地の農家との情報交換を行う場をつくり、津野山ミョウガ農家の栽培管理技術向上に繋げていきます。

アシストスーツを体験 ～スマート農業技術の実演会開催～



メーカーの説明を受けながら
試着する参加者

12月8日に、アシストスーツとドローンの実演会を開催し、ショウガ、水稻の栽培者や集落営農組織、関係機関等20人の参加がありました。

アシストスーツの実演では、3メーカーの協力を得て、「動力源無し」「脱着が簡単」「10万円以下」で選定した各社のスーツの特徴の説明や試着体験を行いました。

参加者からは、「今回のように試着や話が聞けて良かった」「出荷場でも試してみたい」などの声があり、関心の高さが伺えました。当課は、市町産業祭への出店や集落営農組織等への貸し出しなどにより、スマート農業の推進を図っていきます。

がっしりした樹作りで収量向上！ ～土佐甘とう部会反省会～



調査結果を説明する
普及指導員（奥左）

12月9日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターでJA土佐甘とう部会の反省会が開催され、生産者14人が出席しました。

当課からは、2年間の調査で生育終盤に茎周が太いと収量が多くなる関係性が判ったことから、最も茎が太く収量の多い生産者が行っているかん水、液肥施用や整枝などの栽培管理手法を説明しました。生産者からは「毎日液肥を使う方が良いのか、今後はかん水や肥培管理に注意しながら栽培したい」などの声が聞かれました。

当課は、多収を維持している生産者の栽培管理方法や生育調査を通じ、部会員の収量向上が図れるよう普及活動を行っていきます。

米ナスの重要病害を防ごう！ ～米ナス部会反省会～



熱心に話を聞く部会員

12月15日、JA高知県高西地区津野山営農経済センターでJA米ナス部会の反省会が開催され、生産者10人が出席しました。

当課からは、土壌病害による被害が増加していることから、土壌消毒剤の種類と使用方法、注意点を説明しました。また、黒枯病の省力防除のために循環扇を使ったハウス内の温湿度や病害の調査結果を報告しました。生産者からは「うちのほ場も土壌病害がでているので、土壌消毒したい」などの声が聞かれました。

当課は、今後も米ナスに発生する重要病害の防除指導などにより、部会員の収量向上が図れるよう普及活動を行っていきます。